

# 鹿児島県 I P M 実践指標 （果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（果樹）

実践事項		ねらい及び実施・確認上の留意点
発生予察 侵入害虫対策 IPMの 情報収集	ねらい	IPM技術の向上を図るため、実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。 関係機関及び団体等の指導者は、研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施した年月日 2 対象害虫 3 活用した発生予察情報 4 参加した研修会や講習会と参加日 ※研修会や講習会に参加できなかった場合には、「鹿児島県 IPMネットワーク」への加入で条件を満たすこととし、加入者であることを記載する。 5 その他活用した情報等
記帳管理	ねらい	効率的に次作の計画を作成し、技術の改善等を図るため、実施した作業の時期及び内容等を記録する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 実施の有無を記載することで条件を満たすが、記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。
健全苗の使用	ねらい	苗木を介したほ場への害虫の持ち込みを防ぐため、適正な害虫管理下で育成された苗木を使用するとともに、苗木の導入にあたっては、関連する法規を遵守すること。 また、実践者自らが苗木を育成する場合にも、適正な管理に努める。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 苗木を購入した場合には、購入年月日と購入先 2 苗木を自家育成した場合は、その旨を記録
土壌及び 施肥管理 (土壌診断及び 生育診断)	ねらい	土壌の適正な化学性や物理性などの保持や改善を通じて、健全な土壌環境や作物生産を図るため、土壌、品目や樹齢などの土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 土壌診断を実施した場合には、診断実施機関及び診断ほ場面積 2 生育診断の場合には、実施の有無 3 品目ごとの施肥基準量の把握の有無

土壌及び 施肥管理 （良質堆肥の施 用）	ねらい	土壌の適正な物理性や生物相などの保持や改善を図り，土壌の生産力を増進するため，良質な堆肥を施用する。堆肥は，新植前や改植前に施用するとともに，植栽後には毎年，あるいは隔年など，計画的に適量を施用する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 堆肥の種類 2 堆肥の入手先 3 10a 当たりの施用量
適地での 栽培	ねらい	永年作物である果樹では，日当たり，排水，伏流水の有無，風当たり及び潮風の有無等について植栽前に判断し，樹勢の衰弱に伴う病害虫の被害等を未然に防ぐことが重要であり，生産上不可欠な項目として記載した。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
排水対策の実施	ねらい	健全な植物体の育成及び病害の予防対策のため，排水対策を実施する。各品目に適した水分条件，栽培時期及びほ場の立地条件等を考慮し，植物の根域を適切な土壌水分に保てるように努める。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
防風対策の実施	ねらい	健全な植物体の育成を通じて，病害虫の被害軽減を図るため，露地栽培については防風対策を実施する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した資材名
雑草管理	ねらい	病害虫の発生しにくい環境を作るため，ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。 なお，本項目の雑草管理対策とは，雑草の除去だけでなく，草生栽培（カバープランツの利用を含む）等の積極的な植生管理まで含む。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名
土壌流亡防止 対策	ねらい	健全な植物体の育成を通じて，病害虫の被害軽減を図るため，草生栽培（カバープランツの利用を含む）等によって土壌流亡の防止を図る。

土壌流亡防止 対策	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名
整枝・せん定	ねらい	主に以下の点を目的に、各品目に応じた適切な条件で整枝・せん定を行う。 1 栽培管理作業に便利な樹形に整える。 2 隔年結果を防止することで、安定した収穫量を確保し、経済年齢（樹齢）を長く維持する。 3 樹冠全体への採光を確保することで、高品質な果実を生産する。 4 病害虫の発生源を除去する。 5 採光及び通風を確保することで、病害虫の増殖や伝染を抑制する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
罹病植物体の 除去	ねらい	病気の感染源を除去することでそのまん延を防ぐため、発病が見られた樹又は部位等は早めにはほ場外へ持ち出し、処分するよう努める。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
花殻落とし	ねらい	灰色かび病等の病気の発生を未然に防ぐため、感染源となりやすい花殻（花弁、花冠、花糸等）は、ふるい落とす。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
ほ場又は施設内 環境の管理	ねらい	露地栽培では、ほ場内の通風と採光を適切に管理する。施設栽培では、施設内の環境を適正に保つように努めるとともに、必要に応じて循環扇等も利用する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
マルチの利用	ねらい	雑草や病害虫発生の抑制及び適正な土壌水分管理等を通じた健全な植物体の育成等のために、マルチを利用する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名
気門封鎖剤の 利用	ねらい	害虫を窒息死させる作用を有する農薬を気門封鎖剤として扱い（例えば、マシン油等）、登録がある品目で、利用の機会が想定されるものについては本項目を記載した。

気門封鎖剤の利用	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名
ビニル被覆	ねらい	風雨による病原菌の伝染防止及び果実の品質安定化等を目的として、ビニル被覆による屋根掛け栽培を行う。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
袋かけ	ねらい	病害虫の果実への付着や加害を防ぐため、果実に袋かけを行う。 品目ごとの適切な時期に実施する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
ネット被覆栽培 防虫ネットの利用	ねらい	害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを利用する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 ※防虫ネットは4 mm 程度の目合いでも条件を満たす。
捕殺	ねらい	食入性害虫の食入痕を発見した場合には捕殺する
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
光反射資材の利用	ねらい	害虫のほ場への侵入又は植物体への寄生を防ぐために、光反射資材を利用する。 炭酸カルシウム微粉末剤（ホワイトコート）の散布は、収穫3～4ヶ月前まで、回数は2回以内とする。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名
黄色灯の利用	ねらい	ほ場に黄色灯を設置して、ヤガ類等に対する忌避効果をねらう。 費用面等も考慮して、本項目の実用性が見込める品目について記載した。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
交信かく乱剤の利用	ねらい	チョウ目害虫の成虫の交尾を阻害し、次世代以降の密度を抑制するため、人工的に合成した性フェロモン剤（交信かく乱剤）を利用する。 費用面等も考慮して本項目の実用性が見込める品目について記載した。

<p>交信かく乱剤 の利用</p>	<p>留意点</p>	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施の有無</li> <li>2 利用した場合には資材名</li> </ol>
<p>微生物殺菌剤 の利用</p>	<p>ねらい</p>	<p>病原菌の植物体への侵入及び植物体上での増殖を防ぐために、拮抗作用を有する微生物由来の生物農薬を利用する。実用性が見込める品目については本項目を記載した。</p>
	<p>留意点</p>	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施の有無</li> <li>2 利用した場合には資材名</li> </ol>
<p>微生物殺虫剤 の利用 (BT 剤)</p>	<p>ねらい</p>	<p>BT 剤は、微生物由来の生物農薬であり、チョウ目（鱗翅目）害虫に対するとして有効であることから、露地栽培では以下の主な目的又は理由により必須項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 防除スケジュールの中のローテーションの一つの手段として用いることで、薬剤抵抗性発達の防止が図られる。</li> <li>2 土着天敵に対して影響が小さい。</li> <li>3 農薬のポジティブリスト制度に対応できる手段である。</li> </ol> <p>露地栽培において、チョウ目害虫に対して2回以上防除を実施する場合には、1回以上 BT 剤を利用すること。</p> <p>一方、施設栽培では、防虫ネットの利用が原則として必須項目となっており、この手段によって一定の密度抑制効果が見込まれることから、選択技術とする。</p>
	<p>留意点</p>	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施の有無</li> <li>2 利用した場合には資材名</li> </ol>
<p>天敵の利用</p>	<p>ねらい</p>	<p>本項目での「天敵」とは、害虫を捕食又は害虫へ寄生する節足動物類（クモ、ダニ、昆虫等）として定義した。</p> <p>各品目での、技術の実用性及び普及実態等を考慮して、必須項目又は選択項目を位置付けた。</p>
	<p>留意点</p>	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施の有無</li> <li>2 利用した場合には資材名</li> </ol> <p>※本項目が必須となっている品目では、必ず資材名を記録すること。</p>

土着天敵の 保護利用	ねらい	<p>各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際、土着天敵（クモ、ダニ、昆虫等）の保護利用が図られるよう、土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。</p> <p>なお、付表の選択的農薬については、「鹿児島県 IPM 実践指標策定要領（IPM 実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき、一定の要件を満たす農薬を例示した。</p> <p>「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める、化学合成農薬使用成分回数を目標とし、所定の回数の範囲内において、効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。</p>
	留意点	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <p>1 実施の有無</p> <p>2 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由</p> <p>※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり、リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが、リスト以外の農薬は、選択的農薬では防除できない、あるいは防除が困難な場合など、必要最小限の使用に努めること。</p> <p>選択的農薬は、全ての天敵に対して影響がないものだけでなく、一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示してあり、影響の詳細については、IPM 実践指標総論の付表を参照すること。</p>
農薬の使用 全般	ねらい	<p>本実践項目に記載する内容は、農薬の適正使用、農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。</p>
	留意点	<p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <p>1 実施の有無</p>

その他（品目ごとに特異的に掲載した実践項目）		
芽かき （マンゴー）	ねらい	マンゴーでスワルスキーカブリダニを利用してアザミウマ類の密度を抑制するためには、果実生育期に、新梢でのアザミウマ類の増殖を防ぐ必要があるため、新梢の芽かきを実施する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無
特定の実践項目	ねらい	各品目において、特定の対策が必要な病虫害（雑草）については、必要に応じて記載した。 県又は関係機関・団体等の指導内容に基づいて実施する。
	留意点	自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無